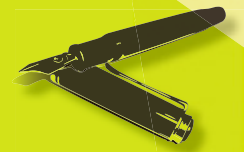


# 世界へ飛び出せ！ 明大生 協定校留学日記



Vol.6 アデレード大学 (オーストラリア)  
オーストラリアで政治を学ぶ

政治経済学部4年  
谷口 暢



JLACSで参加したイベントでの1枚



Cityの中心Rundle Mall



アデレード大学キャンパス

オーストラリア、サウスオーストラリア州に位置するアデレード大学にて2014年2月下旬から12月上旬の期間で留学をしました。明治大学とアデレード大学は2012年に交換留学協定を結んだばかりで、私が2人目の交換派遣留学生となりました。アメリカやヨーロッパに比べて、オーストラリアに留学へ行く学生の数はあまり多くありませんが、この記事が少しでもオーストラリア留学への関心を高めることができればと思います。

実は、私は2年次の春休みに短期留学でアデレードを一度訪れた

ことがあります。

そのプログラムでは、ホームステイをしつつアデレード大学付属の語学学校で語学研修を受けるというものでしたが、現地での学生との交流を通じて、自らの英語力の未熟さを実感すると共に、語学留学ではなく、現地の学生たちと全く同じ環境で勉強したいという思いが強まり、帰国後すぐに交換留学への出願に向けて留学試験の勉強を始めました。帰国後の就職活動を考えた際にも、オーストラリアの学期システム(前期3月〜7月/後期8月〜12月)は非常に都合が良く、他の国への留学は一切考えませんでした。

私は、明治大学で政治経済学部所属しており、とりわけ国際関係に関心があるため、留学先でもGlobalization and Citizenship、Global Transformation、Global Environmental Politicsなどの国際政治科目を中心に履修しました。

点での発言が求められることです。当然、中国政治に関し、ある程度の理解がなければ、文献をクリティカルに捉えることなど不可能です。そのため、私は毎週のリーディングは勿論、+αで他の論文を読まなければ、知識が追い付かず、苦しい思いもしましたが、授業内の発言に対して教授から良い反応を貰えることも少なくなく、確かな手ごたえを感じることができました。

勉強に加え、課外活動にも積極的に参加しました。まず、私がこちらで最初にしたことには日本語や日本文化に関心がある学生を探し、彼らと共に「Japanese Language and Cultural Society (JLACS)」という日本語、日本文化を勉強発信するクラブを立ち上げたことでした。大学の公認を得て、勉強会、カルチャイベントへの参加など、積極的な活動を行います。現在では、JLACSは日本の高校大学からの短期留学生と現地学生との交流イベントなどの運営を大学より委任されるなど、設立半年にして大きな役割をもつ団体となりました。

また、イベントのボランティアや、地域のコミュニティにも積極的に参加し、同年代だけでなく、子供たちや社会人の方々など幅広い年代の人々との交流を持つことができ、今ではアデレードは自分にとって第二の故郷のような存在となっています。

数ある授業の中で、特に印象に残っているのは、前期に履修したComparative Politics (比較政治学)と後期に履修したDecoding China (中国政治)の2つです。Comparative Politicsでは4人1チームで毎週テーマが与えられ、それに関したリサーチを行い、毎週の授業でディベートを行いました。私はチュートリアル内で唯一の交換留学生でしたが、特別扱いは勿論ありません(笑)。毎週の授業は緊張の連続でしたが、授業外でチームメンバーとトピックに関して議論を重ね、ディベートに向けて準備した経験は、日本では得難い貴重なものでした。Decoding Chinaは、その名の通り、少数民族、環境問題、香港・台湾関係など、中国の諸問題を扱う発展的なクラスです。毎週のリーディングとして1つのトピックに関する文献が渡され、チュートリアルでその内容に関してのディスカッションを行います。この授業での困難であり、エキサイティングな点は、文献の論点、根拠、アプローチなどに対して常にクリティカルな視

この交換留学を通じて実感したことの一つは、ひとたび日本を離れば「英語は話せて当然である」という現実があること。その前提の下、学生たちは各々の専門性を磨いており、そういった環境に1年間身を置いて、勉強できたことは私にとって非常に大きな刺激となりました。自ら積極的に行動を起こすことにより、たくさんの方の貴重な出会いにも恵まれ、留学を通じて、人間としてもひとまわり成長することができたと思います。帰国して間もなく、就職活動に向けての準備が始まりますが、今では不安はあまりなく、むしろこれから先の新たな出会い、挑戦が楽しみで仕方ありません。

## Profile

谷口 暢  
Toru Taniguchi

政治経済学部政治学科4年  
東京都生まれ、明大中野高校出身  
所属サークル: Allround Piano Society (アコースティック音楽サークル)



友人が撮ってくれた1枚

アデレード大学では、全ての授業はレクチャーとチュートリアルと呼ばれる少人数でのグループ授業の2つが必ずセットになっており、チュートリアルでは全ての学生の積極的な発言が求められます。最初の数か月は英語にも自信がなく、毎回のチュートリアルで思ったことを言うことができずに、悔しい思いをすることもありました。が、とにかく誰よりも事前の予習をすることで英語力をカバーし、毎回の授業で必ず発言をするように努めました。また、授業外でクラスメートと会い、授業の内容に関して議論をする機会も多く、常に勉強を中心に据えた1年間であったといえます。

りました。

また、イベントのボランティアや、地域のコミュニティにも積極的に参加し、同年代だけでなく、子供たちや社会人の方々など幅広い年代の人々との交流を持つことができ、今ではアデレードは自分にとって第二の故郷のような存在となっています。

この交換留学を通じて実感したことの一つは、ひとたび日本を離れば「英語は話せて当然である」という現実があること。その前提の下、学生たちは各々の専門性を磨いており、そういった環境に1年間身を置いて、勉強できたことは私にとって非常に大きな刺激となりました。自ら積極的に行動を起こすことにより、たくさんの方の貴重な出会いにも恵まれ、留学を通じて、人間としてもひとまわり成長することができたと思います。帰国して間もなく、就職活動に向けての準備が始まりますが、今では不安はあまりなく、むしろこれから先の新たな出会い、挑戦が楽しみで仕方ありません。